
平成 30 年

6 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

革新支援センター■かき 「ねおスイート」栽培技術研究会の開催

県オリジナルかき新品種「ねおスイート」のブランド化に向け栽培技術研修会を6月22日に開催した。

農産園芸課及び農業経営課が主催し、農業技術センターの協力も得て、苗木を導入した生産者、関係機関ら約60名が出席した。

農業技術センターから現在の生育状況、品種特性等について情報提供を行い、意見交換を図った。期待の新品種ということで、生産者からは多くの質問があった。

栽培方法を確立していくため、今後も定期的を開催して情報交換を行う予定である。



【技術研修会の様子】

中濃農林■加工用さつまいも さつまいも新産地づくり 1.2haに定植

農業普及課では、美濃市大矢田地区を中心に本年度から遊休農地を活用した加工用さつまいもの新産地づくりに取り組んでいる。

美濃市の認定農業者が中心となり、新たに耕作を始めた遊休農地などで1.2haの定植が終了した。試験ほ場を設置して4品種を比較し、その栽培結果から品種選定と中濃地域版「栽培こよみ」を作成する。

今後は、次年度の生産者募集、機械収穫の実演会などを行い、岐阜県の新たなさつまいも産地となることを目指す。



【試験ほ場の様子】

可茂農林■業務用米「あきさかり」 実需者との交流会

J Aめぐみの農業担い手協議会の活動として、可児地域の担い手8組織が、今年度より業務用米「あきさかり」栽培に本格的に取り組んでいる。

6月5日に、「あきさかり」の契約を結んだ米飯加工業者Sが可児市大森の栽培ほ場にて田植え体験を行った。J A全農岐阜及びJ Aめぐみのが企画したものであり、S社からは地域統括本部長、工場長をはじめ、商品開発のスタッフなどの参加があり、農業の現場を知っていただく良い機会となった。

また、「あきさかり」を使用したカレーライスに参加者で試食したところ、S社からは「おいしい」との評価を得るとともに、もっと出荷してほしいとの要望があった。

6月12日には、J Aめぐみの（本店および可児営農経済センター）及び農業普及課にて、「あきさかり」の活着状況を確認し、6月19日に生育調査を開始した。

農業普及課は、「あきさかり」の定着を目指して、J Aめぐみの農業担い手協議会の活動を積極的に支援していく。



【交流会の状況】

東濃農林■エゴマ 新たな特産品をめざし、生産拡大を支援

瑞浪市日吉町の機械化営農組合では、水稻栽培を中心に営農活動を行っており、地域の農地の維持に大きく貢献している。こうした中で、3年前から経営の補完品目としてエゴマ栽培にも取り組んでおり、平成28年度にエゴマの搾油施設を整備し、昨年から本格的に搾油したエゴマ油の販売を開始している。

今年度も、水稻育苗ハウスを利用して5月中旬から播種を開始し、



【エゴマの育苗の様子】

6月下旬から順次定植作業を行っている。栽培面積は約3haを予定しており、昨年以上の収量を目指している。また、今年は搾油後のエゴマ残渣を有効活用し、商品化にも取り組む予定である。

農業普及課では、営農組合のエゴマの安定生産を支援するとともに、地域内での生産拡大を進め、新たな特産品づくりを目指していく。

下呂農林■エゴマ 市内での栽培を拡大～金山地区で試験栽培開始～

下呂市では、飛騨小坂あぶらえ生産組合を中心に「あぶらえ(エゴマ)」の栽培と東京オリパラを見据えた加工品の開発に取り組んでいる。

エゴマは、主に市北部小坂地区で栽培されているが、広く普及を進めるため、今年度、新たに南部金山地区での栽培試験と生産組合の作業受託(移植と収穫)を開始した。

6月26日には、昨年度に組合へ導入された汎用移植機を使用し、金山の約45aのほ場で移植作業が行われた。

農業普及課では、作業受委託の仕組みづくりを支援してきたが、今後は生育調査や金山での収穫適期の分析などを行い、栽培地拡大に向けた取り組みを推進する。



【金山ほ場での
移植受託作業】

多様な担い手づくり

西濃農林■トマト 就農支援センター研修生修了式

6月11日に県就農支援センター第4期生の修了式が開催され、修了証書及び記念品授与の後、4名の研修生が決意表明を行った。式には、地元選出の県議会議員をはじめとする来賓並びに関係機関職員も多数出席し、研修生の門出を祝して激励の言葉が贈られた。

6月8日には研修報告会があり、それぞれの研修生から研修で学んだことや今後の営農計画などが発表された。特に、今回初めて、トマト農家の後継者として研修を受けた研修生は、「自分のこれからのトマト経営が、後継者のモデルとなるように努力したい」と抱負を語った。

農業普及課は、技術指導及び関係機関との連携により、早期の営農定着と経営安定に向けた支援を行う。



【4名の門出を祝して】

売れるブランドづくり

岐阜農林■えだまめ 県GAPに向け内部点検実施

J Aぎふえだまめ部会は、県GAP確認制度への7月申請を目指し、6月7日にJ Aぎふ曾我屋選果場において、団体事務局の管理体制や選果場の施設管理等について、J A職員、農業普及課(岐阜県GAP指導員)立会いの下、内部点検を行った。その結果、概ね基準を達成していたものの、一部改善が必要な事項も確認されたため、早急に改善対策に取り組んでいくことにした。

同部会は、申請に向け、4月に事務局研修会や自己点検の実施、5月に申請希望者を対象とした説明会を開催するなど、急ピッチで準備を進めてきた。

農業普及課では、引き続き関係機関と連携し、県GAP確認制度の円滑な推進を図るとともに、団体申請における課題を整理することとしている。



【施設点検の様子】

揖斐農林■GAP トマト、水稲生産者への現地指導

池田町のトマト生産者から、GAPの取組みに関して相談があったため、取組みの意義及び、認証や県GAPの確認制度について説明し、点検項目等について現場を確認しながら指導した。

すでに6次産業化や直売を行っており、GAPに取り組むことで、安全、安心に力を入れていきたいとの意向が示された。

また、県GAP確認制度への申請を目指している揖斐川町の水稲生産者に、燃料や農薬の保管、記帳様式について助言した。燃料や農薬等の使用量が多いため、今後、合理的で効率的な保管方法や記帳方法について、生産者と検討していく。今後も両者に対して県GAPの基準に適合するよう、引き続き支援を行っていく。



【GAPの現地指導の様子】

郡上農林■トルコギキョウ・ユリ 部会勉強会を開催！

ひるがのフラワーサークルでは、構成員の栽培技術向上と品質統一を目指し、定期的に部会別勉強会を開催している。栽培管理が難しくなる夏場を前に、トルコギキョウ部会は6月6日、ユリ部会は6月12日に勉強会が開催された。

今回は、産地で問題となっている高温障害や葉焼け対策として取組んでいるハウスビニールへの赤外線反射フィルム使用試験を中心に、生産者ほ場を巡回し生育状況や栽培方法について意見交換を行った。

農業普及課では、現地試験の経過報告や梅雨時期に発生が懸念される灰色かび病対策を中心に、病害虫管理について注意を促した。今後も高品質花き生産が安定的に実現できるよう支援を継続する。



【生育状況の確認】

恵那農林■水稲 「極良食味米産地確立プロジェクト」の本年度活動を開始

管内の生産者、JAひがしみの、中津川市、恵那市、県で構成される「東美濃産コシヒカリ」極良食味米産地確立プロジェクトは、6月22日に恵那総合庁舎において平成30年度第1回戦略チーム会議を開催した。

今年、国際大会である米・食味分析鑑定コンクールが高山市で開催されることから、同会議ではコンクール入賞を目指したモデルほの設置やコンクール出品向け研修会の開催について検討した。また昨年引き続き生産者を対象に現地情報交換会を開催して食味向上についての気運を高めることを確認した。

同プロジェクトでは、今後も生産者、関係機関の一致協力のもと、極良食味米産地の確立に向け積極的な活動を展開する。



【会議の様子】

飛騨農林■野菜 飛騨地域のGAP研修会が始まる

飛騨野菜出荷組合では8年前から独自の「ひだGAP」に取り組んでいる。今年度からは「ひだGAP」の取組内容を「岐阜県GAP確認制度基準」に準じた内容にし、取組みのレベルアップを図っている。

それに伴い、6月11日の清見地区を皮切りに各地区で研修会が開催された。研修会ではGAPの取組について解説した「ひだGAPマニュアル」を用い、管理項目について説明し、チェックリストを用いた自己チェックが行われた。

今後、研修会で記入したチェックリストをもとに組合員ごとに改善提案書を作成して配布し、GAPに対する意識の向上を図っていく。

農業普及課は関係機関と連携し、さらなるGAP推進に向けて支援していく。



【研修会の様子】